

中野市・山ノ内町地域公共交通対策協議会 令和8年度第1回山ノ内町分科会 議事録（要旨）

開催日・出席者等

開催日時 令和8年5月26日（火） 午前10時から午前11時15分

場 所 山ノ内町役場 4階 401会議室

出席者 委員：13名（敬称略・順不同）

- | | |
|-----------------------------|--------|
| ・山ノ内町商工会 会長代行 | 佐藤 匡則 |
| ・山ノ内町社会福祉協議会 事務局長 | 山口 辰也 |
| 代理出席 地域福祉係長 | 鈴木 太郎 |
| ・長電バス株式会社 乗合乗用部長 | 大石 真一 |
| ・北陸信越運輸局長野運輸支局
主席運輸企画専門官 | 渡邊 徳之 |
| ・山ノ内町議会 総務産業常任委員長 | 山本 光俊 |
| ・山ノ内町議会 社会文教常任委員長 | 高田 佳久 |
| ・山ノ内町議会 広報常任委員長 | 志鷹 慎吾 |
| ・山ノ内町区長会 須賀川区長 | 徳竹 重弥 |
| ・山ノ内町区長会 杓野組惣代 | 望月 福一 |
| ・山ノ内町西部協議会 会長 | 阿部 好徳 |
| ・山ノ内町南部協議会 会長 | 春日 雅之 |
| ・山ノ内町民生児童委員協議会 会長 | 宮崎 のり子 |
| ・山ノ内中学校 PTA 会長 | 山口 辰也 |

※欠席者 5名

事務局：3名

- | | |
|------------------|-------|
| ・山ノ内町未来創造課 | 堀米 貴秀 |
| ・山ノ内町未来創造課企画政策係長 | 樋口 淳一 |
| ・山ノ内町未来創造課企画政策係 | 樋口 智章 |

傍聴者：6名

報道機関：2名

会議事項等

1 開 会 （事務局 堀米課長）

- ・本分科会は中野市・山ノ内町地域公共交通対策協議会規約第 21 条に基づき設置される、地域公共交通の実情について話し合うための分科会である旨説明
- ・公開による会議である旨の説明

2 副町長不在説明 （事務局 堀米課長）

本来であれば、副町長が分科会長として会議を招集するところですが、前副町長の任期満了後、現時点において選任に至っていない状況です。

今回の分科会開催については、協議会名により通知させていただき、分科会の主旨としては、山ノ内町地域の実情に即した輸送サービス全般に関する事項を協議することとしているため、町の事務局により進行させていただきます。

3 委員の委嘱（進行：事務局 堀米課長）

分科会規約第 4 条第 2 項の規定により令和 9 年 3 月 31 日までを任期として皆さまに委嘱をさせていただいておりますが、新たに委員になられた方に委嘱させていただきます。

本来であれば、新たに委員になられた皆様方に委嘱状の交付をさせていただくところですが、時間の都合から、机の上に置かせていただいておりますので、ご承知をいただきますようお願いいたします。

4 報告事項（進行：事務局 堀米課長）（説明：事務局）

(1) 楽ちんバス及びチョイソコやまのうちの利用状況について

- ・資料 1 により説明
- ・以下質疑及び意見

【委 員】

- ・菅線の利用状況について教えてほしい。

【事務局】

・令和 6 年 10 月から一か月間、乗降調査を実施し、信州中野駅から菅・湯田中駅間で延べ人数 740 人、乗車 370 人、降車 370 人。菅・湯田中駅から信州中野間で延べ人数 556 人、乗車 278 人、降車 278 人であった。利用者数は少なく、一日あたり 10 人程度の利用である。

【委 員】

・西北部地区の利用者数として令和 6 年度 4,595 人、令和 7 年度 4,395 人であり、前年比▲4.4%、一日平均乗車人数が令和 6 年度 12.6 人/日、令和 7 年度 12.0 人/日とあるが、利用者数の増減についてどのように評価しているか。

【事務局】

・利用者数自体が少ないため、特定利用者が利用をやめたり利用回数を減らしたりするだけでも大きな増減率として表れる。例えば、週数回利用する高齢者が病気等で外出しなくなるだけで年間 100~200 回程度の利用減となることもある。そのため、数値の変動だけで判断するのではなく、利用実態を踏まえて評価している。

【委員】

・人口減少や高齢化が進む中で、3年後、5年後を見据えた利用予測や将来計画を示していく必要がある。現状報告だけではなく、将来見通しを示したうえで対策を検討するべきではないか。

【事務局】

・中野市・山ノ内町地域公共交通計画において、公共交通網の維持を基本方針としている。また、高校生通学定期補助、公共交通利用促進、脱炭素施策との連携なども進めている。将来的には人口減少が避けられない一方で、若年層や子育て世代の定住促進も図っており、状況を見ながら柔軟に対応していきたい。

【委員】

・利用者数だけでなく、事業費や収支状況についても会議で共有してほしい。今後の会議では収入・支出の内訳や補助金の状況なども分かる資料を提示していただきたい。

【事務局】

・支出として、楽ちんバス運行経費約2,000万円、収入としては、運賃収入約70万円、国補助金約300万円となる。また、鉄道支援や地域公共交通全体を含めると、町の公共交通関連事業費は年間約5,000万円規模となっている。次回以降、より分かりやすい資料を提示できるよう検討する。

5 会議事項

(1) 菅線廃止に伴う代替運行について

- ・資料2により説明
- ・以下質疑及び意見

【委員】

・楽ちんバスとチョイソコやまのうちの使い分けが分かりにくい。利用者目線での周知が必要ではないか。

【事務局】

・朝夕は定時定路線、昼間はデマンド交通という役割分担で運行。現在は車両及び運転手が1台体制であるため一部時間帯では両方の運行ができないが、今後は2台体制を構築することで運行の充実を図りたい。

・現在、西北部地区でデマンドを導入しているが、当初は予約制に対する不安や反発もあったが、実際に利用した住民からは利便性が高いと評価を受けているため、南部地区においても実証運行を通じて利用状況を確認しながら本格導入に向け検討する。また、利用実績の少ない停留所については、実証運行期間中に利用状況を確認し、今後の停留所配置や運行経路の見直しの参考とする。

【委員】

- ・実証運行の評価基準や利用実績の分析方法を明確にしてほしい。

【事務局】

- ・停留所ごとの利用状況や運行実績を分析し、必要に応じて停留所やダイヤの見直しを行う。

【委員】

- ・現在利用している利用者が不便にならないよう配慮してほしい。

【事務局】

- ・既存利用者の利用実績を踏まえながらダイヤ設定を行う。

- ・その他意見なし
- ・原案のとおり承認

4 その他（進行：事務局 堀米課長）

【委員】

・令和8年度当初予算審査における附帯意見として、新たな交通手段としてライドシェアについて検討するよう要望したが、検討しているか。また、公共交通は利用されなければ維持できないため、既存交通の利用促進とあわせて、新たな交通手段についても検討を進めてほしい。

【事務局】

・ライドシェアについては、約3年前から町として検討・協議を行った。当時は、安全性の確保や運行管理体制の課題があり、直ちに導入できる状況でなかった。他自治体の実証運行の動向を注視し、その結果を参考にしながら町として、導入の可能性を検討していく。また、近年はインバウンド需要の増加により、町内だけではなく北信地域全体をまたぐ広域的な移動需要が高まっている。例えば、志賀高原や地獄谷野猿公苑を訪れた観光客が野沢温泉方面へ移動する場合、現在の公共交通網では複数回の乗り換えが必要となり、多くの時間を要する。今後はライドシェアを含めた新たな交通手段について、山ノ内町単独ではなく、北信地域全体を視野に入れた広域的な交通施策として検討する。

【委員】

・ライドシェア実施は、第二種免許の保有がなくてもドライバーとなれるが、安全の担保がされていないことから、事故が発生した際の対応が非常に難しい。会社としては、ライドシェア実施の前にまずは、配車アプリを導入した。

【委員】

・中野市・山ノ内町地域公共交通対策協議会協にて上林線の利用状況も非常に厳しいと発言があったが、利用状況を教えてほしい。

【委員】

・上林線は現在、国及び県の補助制度を活用しながら運行を維持している路線であり、民間事業者のみでの運営が困難な状況である。国の地域間幹線系統補助制度では、一定の輸送量基準を満たすことが補助要件となっているが、上林線の輸送量は基準15.0人をわずかに上回る程度で推移しており、非常に厳しい水準にある。

また、冬季は観光客やスキー客等の利用により一定の利用者数があるものの、年間を通して見ると閑散期の利用が少なく、路線全体としては厳しい経営状況にある。

・上林線については国・県の補助に加え、山ノ内町及び中野市からも運行維持のための補助があり、令和7年度実績では約1,000万円を町から補助していただいた。ただし、補助金については、長電バスがもらうのではなく、赤字補填分に対して上林線に補助金が付いていること

をご理解いただきたい。

- ・その他意見なし

5 閉 会 （事務局 堀米課長）